

袋井保健センター分室は、旧静岡食糧事務所を市で買い取り活用しているもの。価値あるものであったか。

この分室は、貯筋（ちょきん）健康教室や手話、点字、要約筆記等の各種サークル活動に使用していただいております。17年度の利用状況は、午前194回、午後190回、夜間141回の計525回、延べ5,200人であり、有効に活用していただいていると評価をしています。

広島県呉市で大きな水道事故があった。本市の水道は平成17年度実績で63.8%を県企業局から受水しているとのことだが、県の地震対策の現状はどうか。

「県企業局の中遠系では、浄水場や本管の施設、ポンプ場は全て耐震工事を行っている。今後、地震に弱い施設や重要度の高い施設は順次耐震工事を進める。また、太田川系の新設の管は、阪神・淡路大震災後の新基準の管路を使用している。」と伺っています。なお、本市の水道は残り36.2%を井戸から引いているのに対し、呉市は全て県からの受水という違いがあります。



学校司書を配置する袋井西小学校の図書館



袋井保健センター分室での「貯筋健康教室」の様子

来年1月から導入予定の電子情報処理による申請可能なものは具体的にどのようなものがあるのか。

申請時に本人確認が必要でないもの、面談等の必要がないもの、多くの添付書類等が伴わないもの、料金等が必要でないもの等で、具体的には水道の給水届け、下水道の受益者変更届、保育所の退所届け、在宅ねたきり高齢者等紙おむつ支給申請、在宅ねたきり高齢者等紙おむつ資格喪失届け、その他市民ヘルパー養成講座やグリーンウェーブキャンペーン等への参加申込等を考えています。住民票等交付申請の受付についても検討しています。

11月1日から袋井市民病院の病床数を451床から400床に削減することだが、経営改善につながるのか。

病床数削減の理由の一つである患者の療養環境をよくすることにより療養環境加算が認められる等、経営上の改善にもつながります。具体的には、1ベッド当たりの面積を8㎡以上確保した場合には、療養環境加算が請求でき、年間最大約600万円の増収が見込まれます。亜急性期病床も5床の増加を見込んでおり、年間最大約750万円の増収につながります。